

沖永良部島の ホエールスイムとケイビング

Tourism activities in Okinoerabu Island : Swimming with whales and caving

T. Kamibayashi

E-mail: kamibayashi@amsl.or.jp

沖永良部島は、鹿児島市から南へ552km、北緯27度線の上に浮かぶ周囲55.8km、面積93.8km²の隆起さんご礁の島です。人口は1万4千人あまりで、年間平均気温は22℃。鹿児島県でありながら沖縄に近いこともあり温暖な気候です。2013年2月15日、那覇空港からセスナに乗り、50分程で沖永良部島の東端にある、小さく簡素な沖永良部空港に到着しました。そして、ホテルの送迎車で海沿いの道を一路南に下り、15分で和泊港近くのホテル・えらぶシーワールドに到着です(図1)。

今回、沖永良部島を訪れた目的は、近年、この島で、新たなアクティビティとして注目されている、ホエールスイム(クジラとの海中遊泳)とケイビング(洞窟探検)に参加することでした。

ホエールスイムの拠点は、冬期の強い北風を見越して、宿泊先のホテルから更に南西に位置した知名漁港です。ホエールスイムを世話して頂いたダイビングショップ「むがむがダイビング」さんは、知名漁港からほど近い高台にあつて、そこからほぼ毎日のように南方沖に回遊する母子クジラのブローやアクションを目撃できました。しかし、初日以外、この時期には珍しく南よりの風が吹きつける日が続いたので、2日目からは、知名漁港から南側の海へアプローチするのを諦め、島の北西部にある沖泊漁港からのアプローチに変更となりました。

ホエールスイムは、ボートでクジラにかなり接近してからのエントリーが理想です。近づけるか近づけないかは、回遊するザトウクジラの行動に左右され、海面近くを漂う泳力の弱い赤ちゃんクジラとその動きに合わせてゆったりと泳ぐ母クジラを探し当てるのがベストです。し



図1 沖永良部島の地図

かし、滞在中は単独のザトウクジラしか見つけられず(写真1)、何度も近づこうとしましたが、試みた4回全てが失敗に終わりました。知名漁港の沖には、母子クジラがいるのに、時化しているせいでそこにいけないなんて…と、参加者全員が落胆していました。

ケイビングには宿泊最終日の2月19日の午後に参加しました。この日は北よりの風が変わり、朝から生憎の雨でしたが、無論、ケイビングには影響はありません。



写真1 2月18日に参加したホエールスイム的一幕

スイマー達の遥か前方に潜行する一頭のザトウクジラが見える(テール↓)。



写真2 ケイブパール

島の地下には、200から300もの鍾乳洞が散在し、「ケイビングの聖地」とも言われています。ケイビングガイドと共に訪れた洞窟は、大山水鏡洞といい、初心者でも十分楽しめる洞窟でした。ただ、洞窟内は暗く、迷路のようですので、ガイド無しには先に進むことが困難で、足元も不安定ですので、膝あてと専用のヘルメットは必須でした。因みに、この島では、島のダイビングショップのインストラクターがケイビング協会のガイドの講習を受けて、ケイビングガイドとして認定されている人が多いそうです。

大山水鏡洞は全体で、奥行き10.5km程ですが、その一部を2時間かけてゆっくりと進み入りました。まず、目をひいたのは、洞窟内でも見られる黒雲母を使用した黒色のグスク系土器と青みがかったカムイ系土器の破片でした。何れも、約千年位前に作られたものと推察されています。その土器の破片の近くには、ケイブパール(洞窟真珠)がありました。ケイブパールは砂粒な

どを核とし、周囲に方解石の結晶が幾層にも重なって真珠のように成長したものです(写真2)。洞窟の中腹にはフローストーンと呼ばれる壁面におおいかがさった大きな鍾乳石が有り、その下を流れる川を半身濡れながら進んでいきます。そして、ある時は人ひとりがやっと通れる鍾乳石の隙間を腹ばいになり(写真3)、すり抜けて行きました。洞窟内は湿度が高く、全身ずぶ濡れでしたが、川の水は冷たいものの、北風の吹きぬける冷たい外気に比べれば幾分、暖かく感じていました。

棚田のような形状のリムストーンプール(畦石池)付近の壁面には、キクメイシ科(写真4)やハマサンゴ科のサンゴと二枚貝の化石が隣り合わせに張り付いて、この島が太古の昔に海中のさんご礁であったことを物語っていました。その他、ケイバーたちのパワースポットとして人気を集めている、「奇跡の石柱」と呼ばれる鍾乳石の柱がありました。

この大山水鏡洞の場所の詳細は洞窟内での事故を未然に防ぐために、一般には公表されていません。以前、ガイド無しで勝手に洞窟内に入り込んで、怪我をした人がいたそうです。

沖永良部島のホエールスイムもケイビングも始まって日が浅く、やや物足りなさを感じました。特に、ホエールスイムは港を出てからボートの同乗者全員でクジラを探さなければなりません。座間味村のように高台からクジラを探して無線などで誘導してくれれば、もっと効率よくザトウクジラに近付くことができたでしょう。



写真3 鍾乳石の隙間をすり抜ける筆者



写真4 キクメイシ科のサンゴの化石